

2019年10月9日

2018年度のスチール缶リサイクル率は、92.0%

- 90%以上の達成は8年連続となります。
- 2016年度から始まり2020年度を目標年度とする自主行動計画2020（第3次自主行動計画）のリサイクルの数値目標「90%以上維持」を達成しています。

- 国内での資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル
 - 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、95%以上の自治体で分別収集の対象になっています。
 - スチール缶スクラップは、ティンフリー・スチール化の進展等により高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
 - 国内で発生するスチール缶スクラップは、国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。
- 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル
 - スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッター処理され、スチール缶スクラップ（Cプレス・Cシュレッター）以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。
- 鉄スクラップ相場が下落する動きの中でも、スチール缶スクラップへの評価は変わらず、安定した取引が継続
 - 2018年の世界の粗鋼生産量は18億1千万トンで、初めて18億トンを上回り、過去最高となりました。
 - 2019年も世界粗鋼生産量は過去最高のペースで推移していますが、日本やEU、トルコなどが減産となり、中国を除く世界生産量は前年実績を下回っている状況です。
 - このため、鉄スクラップ需要は減少傾向にあり、世界的に鉄スクラップ相場が下落する動きとなっています。
 - このような動きの中、スチール缶プレス価格も値下がりしていますが、品質が安定し、成分が明確なスチール缶スクラップは、製鉄原料として高く評価されており、引き続き安定した取引が行われています。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当：事務局 細田
電話：03-5550-9431 FAX：03-5550-9435
E-mail アドレス：recycle@steelcan.jp